



「みことばの光」は新しい5年に

みことばの光編集責任者 矢吹 博

「あなたのみことばは 私の上あごになんと甘いことでしょう。蜜よりも私の口に甘いのです。」

詩篇 119 篇 103 節

「みことばの光」は2023年1月から、新しい5年が始まります。5年で旧新約聖書全巻を読み通すという基本はこれまでどおりですが、以下のようにいくつかの変更もあります。

1. カリキュラムについて

これまで通り。主に中高生を対象とする「ジュニアみことばの光」も同じカリキュラムです。

(1) 新約聖書-教会暦に合わせて

新約聖書については、1年目にマルコ、2年目にマタイ、3年目にルカ、5年目にヨハネの順で福音書を読みます。そして、それぞれの年の教会暦の受難週やイースターに向けて、読み始めるように計画されています。たとえば、2023年のイースターである4月9日にマルコの福音書16章を読むのですが、そこに向けて1月17日からマルコの福音書を読み始めます。4年目に読む使徒の働きは、2025年5月24日のペンテコステの日に、使徒の働き2章1-13節を読むように計画されています。

(2) 旧約聖書-時代順に

預言書をほぼ時代順に読むようにしました。さ

らに、一部については列王記の内容に関連した預言書を読むようにも工夫されています。

(3) 複数の執筆者で一つの書を

従来は通常、一つの書を一人の方に執筆していただきましたが、ボリュームのある書については、複数の方に書いていただく場合もあります。



2. 他の翻訳聖書を使用する読者のために

「みことばの光」では、聖句の引用に「聖書新改訳2017」を使用していますが、他の翻訳聖書で書名、章節、人名、地名、主な訳語などに違いがある場合には、脚注欄に記します。その際、「新共同訳聖書」は新共、「聖書協会共



新しい表紙です

同訳」は協共としています。

3. 分かち合いのための質問

各号には「分かち合いのための質問」のページを設けます。グループで「みことばの光」を用いて聖書を読む場合に、ともにみことばに聴いて分かち合うためにふさわしい質問を、概ね週の一つ程度掲載しています。

4. 一年で聖書全巻を読む

従来から日課の奇数ページには一年で聖書全巻を読むために、その日に読む聖書箇所を記載していましたが、新しい5年サイクルでは毎年読む順序を変えるようにしました。2023年は時代順に聖書を読むようにカリキュラムが組まれています。朝に「みことばの光」の聖書箇所を、他の時間に一年で聖書全巻を読むための聖書箇所を読むようにするなど、ご活用ください。

5. 日々聖書を読む時のために

毎号の最終ページに置かれている、「日々聖書を読む時のために」を刷新しました。これまでの「毎日聖書を読む聖書同盟の方法」の主要部分を活かしつつ、用いていただけるよう工夫しました。基本を大切にすることで、みことばを心に留め生活に適用できるようになります。ただし、忙しい日々

のなかで、必ずしもこの方法の順序をたどれない場合もあることでしょう。

6. その他

1) 「読者のページ」に「ひろば」というタイトルをつけました。「みことばの光」を用いて聖書を読んでいる皆様からのお便りをお待ちしています。「こんなことを発見した」「このみことばがいい!」「わたしのみことば生活」など、ちょっとした感想もメールやメッセージなどでお寄せください。

2) 表紙が新しくなりました。三輪義也さんによるものです。毎月の変化をお楽しみください。

「みことばの光」を用いて週一度早朝に「ネットデボーション」をしているグループで、一緒に4年間聖書を読んできた方が、昨年11月に洗礼を受けました。一人で読んでいただいたみことばの恵みは、分かち合うことでさらに豊かなものとなるのですね。皆様の「みことば生活」のために、小誌が用いられるよう願っております。

みことばの光編集責任者矢吹博師は現在ドイツ・フランクフルト日本語キリスト教会牧師をしておられます。この5年の間に後継の編集責任者にバトンタッチを願っています。ふさわしい器が与えられるようにお祈りください。

総主事兼 CSK 主事レポート 嶋田博考

デボーションをみんなで集まって
—CSK デボーションリトリートと CSK グループデボーション—



10月9日(日)~10日(月)、CSK デボーションリトリートが八王子大学セミナーハウスで開催されました。これは昨年から毎月継続しているオンラインのCSK デボーションリトリートから派生した合宿で、中学生から大学生までが参加対象です。初めての開催の講師は、ジュニみこ編集責任者でCSK 委員でもある石井陵太師(JECA 西上尾福音教会)でした。その日のジュニみこを用い、聖書箇所の内容はもちろんですが、聖書を読むことがどういくことなのか、その大切さについても伝える機会としてくださ

いました。参加者たちは、ゆったりとした時間をともに過ごす中で、キャンプからしばらく経った時期に、みことばとともに歩む生活を取り戻すきっかけとしていました。

CSK グループデボーションも祝福のうちに継続しています。今回は11月13日(日)で、ジュニみこ執筆者の若林義也師(JECA 友好教会・沼津港町教会)が参加してくださいました。次回の日程を参加した中高生の都合(教会の午後の予定や学校行事)を考慮して決めるため、開催するのは日曜日の午後15:00~15:40ですが、どの週かは不定期です。CSK キャンプ以外のキャンプに参加する中高生を歓迎いたします。いつも参加するキャンプを大切にしながら、ぜひ同じ中高生とみことばを分かち合える交わりを日本全国に広げていただければ幸いです。参加条件が一つだけありまして、中高生が一人ではなく、同じ教会のどなたか大人の方もオンラインでつないで参加することです。どうぞ詳細は聖書同盟伝道部までお問い合わせください(044-900-8990)。

分かち合う豊かな「みことば生活」

総主事兼 CSK 主事 嶋田博考

日本ウィクリフ聖書翻訳協会、聖書を読む会、聖書同盟の3団体は、10月22日(土)に第2回のスモールグループ・セミナーを開催しました。前回と同じくオンラインで2年ぶりの開催でした。聖書同盟にとっては、通読サイクルがこれまでの5年から次の5年に移行する前のタイミングでした。

第1部は、日本福音キリスト教会連合(JECA)宣教教会の児玉武志主任牧師から、週日の祈禱会では新たに説教をするのではなく、主日の礼拝説教の分かち合いをするという教会の取り組みが紹介されました。そして、児玉先生の内側からその継続を支えている聖句は、「わたしが来たのは、羊たちがいのちを得るため、それも豊かに得るためです。」というヨハネ10:10でした。聖書同盟が大切にすることと重なり、とても印象に残りました。

聖書同盟が担当したのは第2部で、みことばの光を用いてデボーションをグループで分かち合う分科会でした。並行していのちのことば社のマナを用いる分科会もありました。CSK グループデボーションで「ジュニアみことばの光」(「ジュニみこ」)を用いて中高生(と大学生)と毎月していることをほぼそのまま、実際に進行するかたちで紹介しました。その日のみことばの光にある解説が、

聖書箇所を中心的な内容をつかんで全体を網羅してくれることを信頼し、今日、神様が自分に語りかけておられる事実に焦点を当てる方法です。聖書を読んだ後、質問は2つだけで、「どの節が心に留まりましたか」と「どうしてその節が心に留まったのですか」です。それぞれに違う節から教えられる様子を目の当たりにします。自分と同じ節からという人がいれば、それも励ましです。そして、終盤になってから、「ジュニみこ」の読み合わせをします。その日の集いを導く側の立場で、事前にみことばに取り組んで備えた人がいれば、最後に短くまとめて分かち合いとして話をします。この方法は約40分、詳しく身の上話をしなくても、その人にみことばが生きて働くのをお互いの中に見ることができます。

聖書同盟の聖書通読はムーブメント、すなわち運動です。聖書を読むことは受け身ですが、今も生ける主がなされるみことばによる働きかけに主体的に応じる生活です。その生活また人生にある動きは、この地でみこころをなされる主ご自身の働きと波長が合うものです。それが聖書同盟が折々に用いる「みことば生活」、みことばを持つ生活、それも豊かに持つ生活です。2023年からの新しい通読サイクルを、主が用いてくださいますように。

夏のCSK キャンプ・レポート



今年には中高生のためのCSK インキャンプとCSK アウトキャンプが対面で開催されました。2019年の夏が対面では最後のキャンプでしたので、中学3年生だったキャンパーは高校3年生になっていました。関西地区CSK キャンプは、コロナの感染状況を判断し、残念ながら開催中止となりました。3月の春キャンプの開催のためにお祈りいただければ幸いです。

8月8日(月)～11日(木)、日本バイブルホーム(群馬県みなかみ町湯ノ小屋温泉)でインキャンプが開催され、講師は東海林隆之師(JECA 鷺沼キリスト福音教会)でした。CSK キャンプの卒業生で、ジュニミこの表紙のデザインを担当し、表紙と裏表紙や巻頭と巻末の毎月の編集にも加わっておられます。コロナの感染状況を考慮して3泊4日の短い日程で実施したキャンプでした。

8月15日(月)～19日(金)、松原湖バイブルキャンプ・アウトキャンプ場(長野県小海町)でアウトキャンプが開催され、水梨郁河 hi-b.a.スタッフがみことばを語ってくださいました。講師の参加が2日目からというコロナの影響がありましたが、予定通りに無事に4泊5日のキャンプができました。

いずれのキャンプも、「だって好きなんだもん」がテーマでした。事前に感染検査を受けて参加するというこれまでにないキャンプで、神様との関係をことばにしたい、みんなと楽しく過ごしたいという思いが備えられていました。そこに十字架のことばが真実に語られ、すばらしいキャンプとなりました。

第54回 CSK 中学科教師研修会

対面とオンラインで開催します！

日時：2023年3月11日(土) 10:00～11:30、13:00～14:30

講師：中村穰師(飯能の山キリスト教会牧師/逃れの街ミニストリー主催)

主題：神から始まる「新しい自分」を見出すために
-主の救いに輝かされて-

コロナ禍を経た新しい時代に、どのように中高生にみことばを伝えることができるのでしょうか。「信じても苦しい人へ-神から始まる『新しい自分』」の著者で、聖望学園で聖書を教えておられる中村穰師からともに学びます。



中村先生ご自身の記されたプロフィールです。

日本の社会になじめず、18歳の時にアメリカへ家出。1人の牧師に拾われて、アメリカでの生活が始まる。紆余曲折を経ながらも大学を卒業。助けられた恩師と同じ職に就きたいと、牧師になる決意を固める。2009年、米国のウェスレー神学大学院を卒業し、帰国。上野の森キリスト教会で宣教主事として奉仕。上野公園でホームレス伝道を16年続けている。また、居場所のない青年達のための働き『逃れの街ミニストリー』を2006年から始め、共同生活をしながら社会復帰のお手伝いをしている。2014年から飯能の山キリスト教会を立ち上げ、教会カフェを始める。現在、地元の聖望学園で聖書を教えつつ、自由学園とJTJ神学校でキリスト教思想史哲学の講座を担当している。

配信会場に集うか、またはオンラインにてご参加いただけます。日本福音自由協議会・清瀬福音自由教会（岩井基雄師）から YouTube で講演を配信し、オンライン参加者には Zoom でつながっていただいて質疑応答などをいたします。会場の教会は西武池袋線清瀬駅から徒歩 12 分です。対面で集う方の人数は定員がありますのでご了承ください。午前と午後の講演の間は、自由参加の交わりの時間とします。CSK の働きへの献金アピールをさせていただきますが、参加費は無料です。

参加ご希望の方は、お名前、教団・教会名、ご住所、メールアドレス、電話番号を明記し、お申し込みください。開催が近づきましたら、オンライン参加に必要な情報をお伝えいたします。今回は対面とオンラインの開催ですが、企画・運営する CSK 委員会では、若い人への働きに取り組む日本全国の諸教会にお仕えしたいと願っています。遠くから近くからのご参加を心よりお待ちしております。

CSK 主事が与えられるようにお祈りください

CSK の働きは、中学生や高校生たちが、主のみことばを通して、イエス・キリストの救いに導かれ、さらにみことばに養われて成長していくことを願って 54 年前から続けられている聖書同盟の重要なミニストリーです。現在、その働きを現場で実際に担って兼務で働いているのは、嶋田総主事一人です。聖書同盟理事会と CSK 委員会は以前から CSK 主事が与えられるように祈ってきました。現在、一人の方が CSK の働きの重要性を受け止め、主事になることを祈っています。現在、母団体との関係、経済的支援について道が開かれる必要があります。ぜひお祈りに覚えてくだされば幸いです。

聖書同盟 CSK のスタッフです

聖書同盟の事務所は東京都と神奈川県の間を流れる多摩川の土手から数十メートルのところにある賃貸マンションの一室にあります。小田急線と JR 南武線が交差する登戸駅から歩いて数分の近さです。そこで仕事をしているフルタイムのスタッフは総主事の嶋田博考師、事務マネージャーの加藤かおり姉の二人。それにパートタイムで 3



聖書同盟の事務スタッフ（末武姉の退職送別会にて）：左から横田千秋兄、加藤かおり姉、嶋田博考総主事、末武美花姉（6 月退職）、稲垣博史理事長・協力主事、浅見昭恵姉、広沢真理子姉

人の職員が加わっています。事務所での日常の働きは、「みことばの光」や「ジュニアみことばの光」などの月刊定期発行物や書籍の注文受付、発送管理、会計処理、在庫管理、教会の間で働く主事を支える働きがあります。現在はコロナ禍のもと、在宅勤務と事務所での働きを組み合わせでの勤務状態が続いています。

2022年度伝道部会計報告(4~10月)

収入	予算	実績	達成率(%)
聖書通読運動支援献金	4,000,000	2,219,832	55.5
CSK 献金	1,700,000	1,202,584	70.7
通読誌発行支援献金	60,000	82,900	138.1
東西アジア SU 支援献	300,000	47,000	15.6
視聴覚活動指定献金	30,000	10,000	33.3
トルコ SU 支援献金	40,000	51,000	127.5
主事支援特別献金	150,000	83,000	55.3
献金収入の合計	6,280,000	3,696,316	58.9
雑収入(受取利息含)	0	1	
収入 合計	6,280,001	3,696,317	58.9
支出	予算	実績	達成率
対外協力費	313,000	572,669	182.9
人件費	3,656,000	2,044,502	55.9
事務管理費	1,564,000	877,285	56.0
活動費	640,000	291,775	45.6
その他	107,000	25,459	23.8
支出 合計	6,280,000	3,811,690	60.7
収支差額	0	△115,373	

出版委員会が生まれました

理事長 稲垣博史

聖書同盟は「みことばの光」などの定期刊行物だけでなく、聖書の学びを助ける様々な書籍を発行しています。

これまでは、総主事をはじめとするスタッフだけが相談しながら、発行作業をしてきたのですが、5月の理事会で「出版委員会」を立ち上げることになり、委員長として元大学教授で出版にも関わってきた奥村輝夫兄（聖書同盟監事）が選ばれました。すでに数回委員会を開催しました。委員長のリーダーシップで、まずは品切れになっていた書籍の再版や改訂の作業が前進し始めました。活字離れの現今ですが、それでも聖書同盟から、聖書の理解や信仰生活に資する文書を発行してほしいという声があちこちから出ています。これからの働きにご期待ください。

なお、品切れだった「聖書理解のためのガイドブック」、「E100」が再版されましたので、ぜひご利用ください。

経済的な必要のためにお祈りください

聖書同盟の会計は伝道部会計と出版部会計の二つに分かれています。伝道部会計は、聖書通読運動そしてCSKによる青少年への宣教活動を進めるための献金会計です。このニュースレターでは、伝道部会計の状況を報告しています。私たちの使命を受け止め、支えてくださっている教会、皆様様に心から感謝しています。出版部では、みことばの光を中心とする出版活動を行なっていますが、利益が目的ではなく、主の宣教の前進のために採算が取れるすれすれで活動を維持しています。活字離れ、そのほか様々な理由で、出版の継続は至難のわざです。「みことばの光」も紙代等の高騰のため2023年1月号から50円値上げで430円とさせていただきます。続けてお祈りいただければ幸いです。

発行：一般社団法人 聖書同盟 Scripture Union Japan
 〒214-0013 神奈川県川崎市多摩区登戸新町 432-304
 TEL 044-900-9047(出版部) 044-900-8990(伝道部) FAX 044-900-9048
 E-Mail info@sujp.org ホームページ <http://www.sujp.org/>
 関西地区連絡所：〒661-0035 兵庫県尼崎市武庫之荘 1-32-8 TEL&FAX 06-6432-7556
 武庫之荘めぐみ教会(松田吉広)
 献金送金先 郵便振替：00160-8-173175 聖書同盟伝道部
 銀行口座：三菱 UFJ 銀行登戸支店(店番 258)普通 1138865 聖書同盟伝道部
 出版物関係送金先 郵便振替：00140-4-57061 聖書同盟出版部